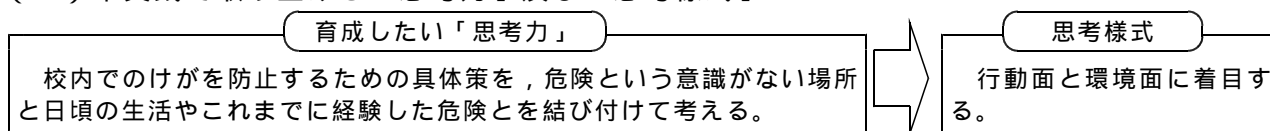


## (1) 本実践で取り上げる「思考力」及び「思考様式」



## (2) 4視点に照らした授業づくり

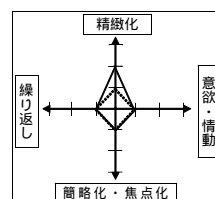
## これまでの授業実践

けがの原因や防止策を考える際には、行動と環境の両面から課題を見つけていくことが大切である。これまでの授業実践では、「休み時間に廊下を走っていて友達とぶつかった」等、起こってしまった事例を基に、課題や解決策を考えさせることが多かった。このような展開の場合、既に原因が明白であるため、原因が特定されやすい。よって、子どもたちは「廊下を走らないようにします」「右側を歩きます」と一般的な解決策ばかりを考えてしまいがちになり、多様な考えへと広がりにくかった。つまり、事例としての対象と自己経験とを結び付けて原因を考える必要がなく、防止策を行動面や環境面から捉えようとしなかったのである(精緻化の必要性)。その結果、学習した内容が子どもたちの生活に生かされることが少なく、同じようなけがを繰り返しているのではないだろうか。

## 「精緻化」を図る開発教材

校内のかくれた危険について経験と結び付けて考えていく場を設定し、行動面と環境面から起こるであろうけがの防止策を考えていく学習

子どもたちが何気なく開け閉めしている戸を危険場所として取り上げ、そこで起こりそうなけがについて考えていく活動を行う(71p注2)。危険という意識がない場所から、そこに潜む危険を見つけていく際には、これまでの経験と結び付けることが必要である。このことによって、けがが起きる状況が把握しやすくなり、原因や防止策を行動面や環境面から探っていくことができるようになる。もし、原因を「施設」というすぐには改善が難しい環境面から捉えたとしても、環境面と日々の生活やこれまでの経験とを結び付けて考えていくことで、行動面からも防止策を考えることができるのである。このようにかかれた危険から解決方法を見出す活動をすることによって、「けがの原因や防止策を考える際には、行動面と環境面に着目する」という思考様式が長期に把持されるのではないかと考える。



【かかれた危険箇所(図書室の出入口)】

## (3) 開発教材の有効性

## 子どもの様相から

## 《かかれた危険とこれまでに経験した危険を精緻化》

図書室は、子どもたちがよく利用する場所であり、その入口にある戸には、危険という意識は全くない。今まで危険とは思っていなかった場所を提示され、戸惑うであろう。そこで、まず戸の構造に目を向けさせ、戸が開いたときの状況を、今までの経験から考えさせることとした。そして、戸の構造から見えてくるかかれた危険と、これまでに自分が経験した危険とを結び付けながら、課題を設定させようと考えた。

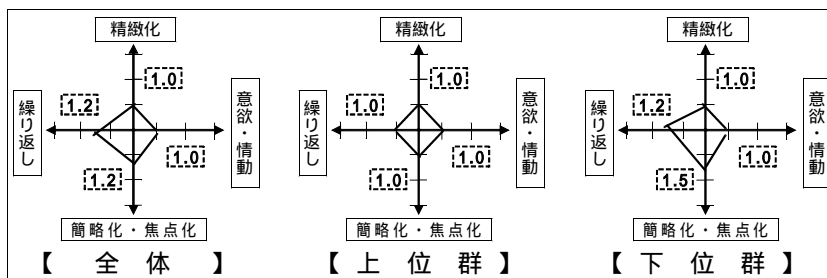
図書室の戸を提示した際、子どもたちにとって危険な所という意識がないため、「ここは大丈夫だ。」「図書室だからけがをすることはしないよ。」という意見が出た。そこで、まず戸が廊下側に開くという構造に目を向けさせ、実際に戸が開いたときの状況を想起させた。すると、「この辺りを走っている人が多いので、突然戸が開いたらぶつかってしまう」等、今までの経験から想定できるけがを見つけていくことができた。また、図書室の周辺を映像で見せ、戸が開いたときの状況をシミュレーションによって経験させることにより、さらに具体的に状況が把握できるようにした。そこから、原因を洗い出していく際には、教師が行動面と環境面に分けて板書していき、行動面と環境面、両面がかかわってけがが起こることを再認識できるようにした。そして、どうすればけがを防止することができるかを考える場を設定したところ、次のようなけがの防止策を見つけることができた。



【経験から危険を見つける】

行動面	環境面
戸を開けるときは、周りを見て確かめながらゆっくり開ける 廊下は走らず、落ち着いて行動する 戸があることを意識して廊下を歩く	戸を開けっ放しにする 戸が廊下側に開くことを表示する(床・ポスター) 戸を引き戸にする 戸の向きを変える(開ける人の方に開くように)

以上のような展開において、全体、個(上位群, 下位群)それぞれの子どもの様相から「4視点に効果が見られたか」について見取りを行ったところ、下のような結果であった。



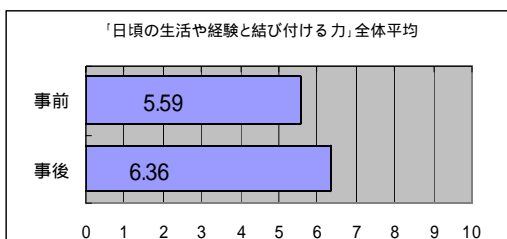
全体、個ともに、「精緻化」の視点においては従来教材と同様の効果という評価であった。授業リフレクションでは本教材をどのように改善していけば有効な教材になるかが話し合われ以下のような意見が出された。

- a) これまでに経験したことを表出させ、より生活と密着させて考えさせること
- b) 板書やワークシートに精緻化させたいものを明確にすること(何と何を結び付けるか)

また、図書室の戸に絞って考えたことによる効果として、「簡略化・焦点化」の面をあげる意見も見られた。

### 検証データから

開発教材が「思考力」(日頃の生活や経験と結び付ける力)の向上や思考様式(行動面と環境面に着目する)の長期記憶化に効果があったかを検証した。検証問題は、評価規準に基づき事前・事後に実施し、さらに事後と1か月後には、思考様式を長期に把持しているかどうかについても検証した。



「思考力」を問う問題(10点満点)については、事前平均5.59点、事後平均6.36点と向上しており、概ね効果があったと考えられる。思考様式の把持については、事後に完全正答であった子ども17名中、1か月後も完全正答した子どもが10名であった。